

2023 年度環境情報科学研究発表大会は、4 年ぶりの対面開催にて行います（一部のプログラムはオンラインでの開催を予定）。本大会では、「環境情報科学学術研究論文集 37」の投稿掲載論文の発表、環境情報科学ポスターセッションでのポスター発表、一般公開シンポジウム、会員から募集する企画セッション（企画シンポジウム）が行われます。

<プログラム>

日時 2023 年 12 月 18 日（月）<受付：9:00 開始 >

※事前の参加登録（登録〆切 12 月 11 日）が必要です

会場 日本大学会館（東京都千代田区九段南 4-7-24）

※2023 年 12 月 15 および 17 日は「公募による企画セッション（企画シンポジウム）」をオンライン（一部対面あり）にて開催します。

内容

- ①環境情報科学に関する研究論文発表（46 編）
- ②環境情報科学に関するポスターセッション（64 題）
- ③一般公開シンポジウム「第 6 次環境基本計画への期待と環境情報科学センターの貢献」
- ④公募による 企画セッション・企画シンポジウム<3 題：オンライン開催>
- ⑤交流会（ポスター表彰式を含む（別途事前申し込み要）

大会参加費

正会員・賛助会員・協賛団体会員 2,000 円 準会員 1,000 円

非会員一般 3,000 円 非会員学生 1,500 円

（ただし 企画セッション・企画シンポジウムおよび一般公開シンポジウムのみは参加費無料）

<交流会参加費>※交流会への参加は、別途お申込みが必要です

正（シニア）会員 4,500 円 準会員 2,000 円 非会員一般 5,000 円 非会員学生 2,500 円

◆問合せ先◆

一般社団法人環境情報科学センター 環境情報科学研究発表大会事務局

〒102-0074 東京都千代田区九段南 3-2-7

E-mail : online@ceis.or.jp TEL : 03-3265-3916

2023年度 環境情報科学 研究発表大会 全体プログラム

2023年12月18日 於 日本大学会館

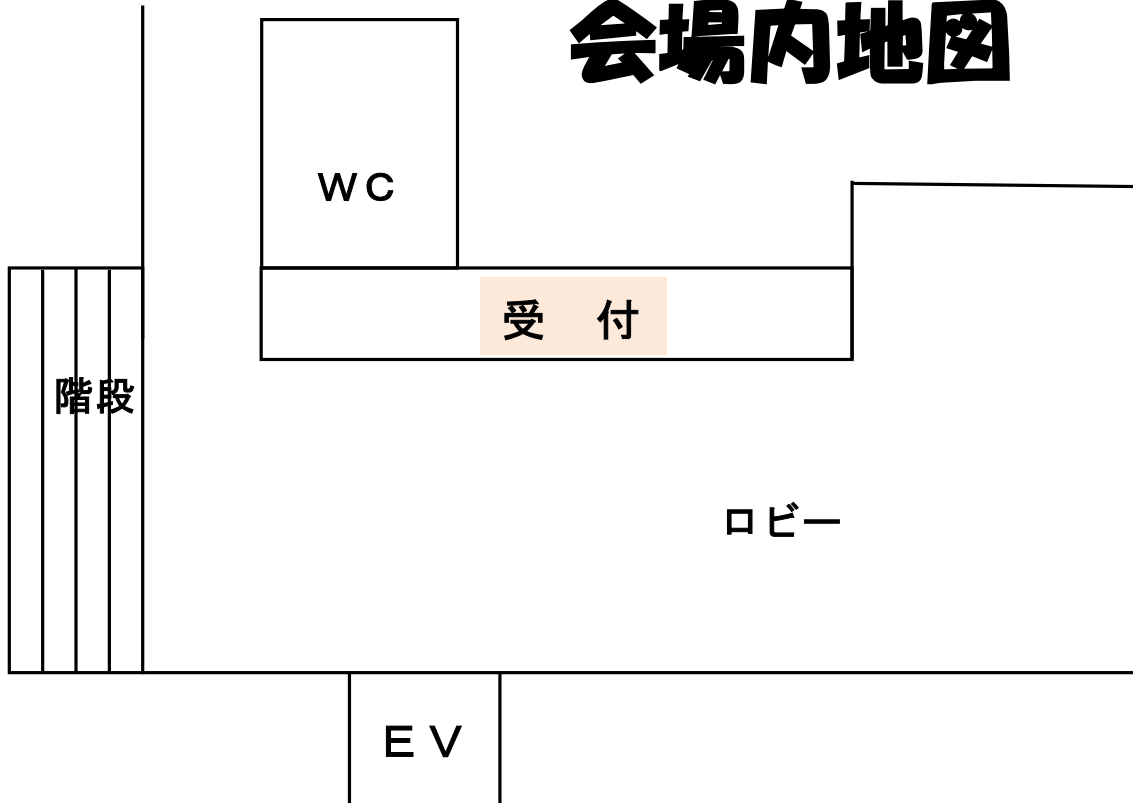
※収容人数

	会場1(201会議室) ※約20名	会場2(202会議室) ※約30名	会場3(203会議室) ※約25名	会場4(大講堂B) ※約100名	会場5(大講堂A) ※約200名
9:00	受付開始(9:00)				
9:15					
9:30	論文発表	論文発表	論文発表		
9:45	<論文口頭発表> セッション① 「地域環境評価、適応策、土地利用、空間認知」 9:30~11:00 セッション② 「土壌・水環境・物質ストック・気象」 11:00~11:30 (発表論文8編)	<論文口頭発表> セッション③ 「再生可能エネルギー、地域電力、カーボンニュートラル」 9:30~11:15 (発表論文7編)	<論文口頭発表> セッション⑤ 「環境学習、環境意識、野生動物管理、国立公園利用、SDGs、生態系」 9:30~12:00 (発表論文10編)	ポスターセッション 環境情報科学ポスターセッション(64題) ※発表番号を偶数と奇数に分けて発表を行う ***** 【発表時間】 奇数番号: 10:30-12:00 (コアタイム11:00-12:00) 偶数番号: 12:30-14:00 (コアタイム12:30-13:30)	
10:00					
10:15					
10:30					
10:45					
11:00					
11:15					
11:30					
11:45					
12:00					
12:15					
12:30					
12:45					
13:00	論文発表	論文発表	論文発表		
13:15	<論文口頭発表> 発表セッション② 「土壌・水環境・物質ストック・気象」 13:00~14:45 (発表論文7編)	<論文口頭発表> セッション③ 「再生可能エネルギー、地域電力、カーボンニュートラル」 13:00~13:45 セッション④ 「地域おこし、人材育成、農村環境、災害復興」 13:45~14:45 (発表論文7編)	<論文口頭発表> セッション⑤ 「環境学習、環境意識、野生動物管理、国立公園利用、SDGs、生態系」 13:00~14:45 (発表論文7編)	※シンポジウムのみ参加者向け受付 (14:30開始) シンポジウム 一般公開シンポジウム 「第6次環境基本計画への期待と環境情報科学センターの貢献」 15:00~17:10	
13:30					
13:45					
14:00					
14:15					
14:30					
14:45					
15:00					
15:15					
15:30					
15:45					
16:00					
16:15					
16:30					
16:45					
17:00					
17:15					
17:30					
17:45					
18:00					
18:15					
18:30					
18:45					
				交流会 (優秀ポスター表彰等) 17:30~19:00	

<企画セッション・企画シンポジウム プログラム >

テーマ	日時	タイトル	<企画責任者>	会場
1	12月17日(日) 13:00~16:00	厄介な問題に挑戦する境界知作業者とエンパシー能力について考える	松岡俊二(早稲田大学) / 辻 岳史(国立環境研究所)	オンライン
2	12月15日(金) 14:00~16:00	洋上風力発電所に関する環境アセスメント、環境配慮	大塚 直(早稲田大学) / 錦澤滋雄(東京工業大学)	オンライン
3	12月17日(日) 16:30~18:30	神宮外苑の歴史的文化的資産の価値を守る - イチョウ並木と100年の森 -	原科幸彦(千葉商科大学) / 戸塚浩一郎(千葉商科大学)	オンラインおよび千葉商科大学丸の内サテライトキャンパス

会場内地図



会場 5 (大講堂A)

出入口

ポスターセッション/
一般公開シンポジウム

会場 4 (大講堂B)

出入口

(ポスターセッション/交流会)

出入口

出入口

会場 1

出入口

論文発表セッション
①・②

201会議室

会場 2

論文発表セッション
③・④

202会議室

会場 3

論文発表セッション
⑤

203会議室

共有スペース

1. 環境情報科学に関する研究論文発表 (計46題)

環境情報科学研究発表大会(2023年12月18日 於 日本大学会館)

発表時間: 15分/論文(質疑応答含む)

【会場1 (201会議室)】

開始時間	タイトル	発表者名	座長
セッション: ①地域環境評価、適応策、土地利用、空間認知			
9:30	全天球画像データを平面展開して得た異なる画角の写真に対する空間的印象と注視要素	笠松咲樹(東京芸術大学)ほか	辰己賢一(名古屋市立大学)
9:45	因果ダイアグラムの作成とシミュレーションに基づく雪害適応策シナリオプランニング	小野聡(千葉商科大学)ほか	"
10:00	茨城県那珂市農地流動化台帳にみる潜在的耕作放棄地の立地特性と台帳の意義に関する考察	鴨志田隼輔(東京大学)ほか	"
10:15	生活環境圏におけるCO ₂ 濃度分布図の多地点比較～地域環境評価の基礎となるCO ₂ 濃度分布の相似性に着目して	ブリバヌバクタ(名古屋産業大学)ほか	"
10:30	京都市高瀬川における河岸変遷と占有形態	須田真理(名古屋市立大学)ほか	中久保豊彦(大阪大学)
10:45	酒米生産地における兼業農家と農業集落の維持－兵庫県三木市の集落を事例に－	松原茂仁(吉備国際大学)ほか	"
セッション: ②土壌・水環境・物質ストック・気象			
11:00	下水道管渠を対象とした社会資本ストックの退蔵化リスク評価	山下奈穂(名古屋大学)ほか	"
11:15	都市構造物を対象とした世代間の同一性判定による建設資材ストック・フロー推計	太田裕也(名古屋大学)ほか	"
(休憩)			
開始時間	タイトル	発表者名	座長
13:00	炭素窒素安定同位体比による境川遊水地の水域におけるオオクチバスの食性解析	對馬孝治(日本大学)	長坂貞郎(日本大学)
13:15	高温経験の遷延性を考慮した高齢者の熱中症と虚血性心疾患の死亡リスクの地理的差異	大橋唯太(岡山理科大学)ほか	"
13:30	気象シミュレーションを用いた首都圏における暑熱ストレスの将来変化	仲吉信人(東京理科大学)ほか	"
13:45	関東および九州北部地域に立地する中山間地の土壌炭素含有率変動要因	佐々木章晴(北海道大学)ほか	對馬孝治(日本大学)
14:00	水解性衛生製品の簡易水解試験方法の提案とその妥当性に関する研究	石田康樹(日本大学)ほか	"
14:15	軟練りコンクリートの間隙通過性評価試験方法に関する研究	笹田勝寛(日本大学)ほか	"
14:30	鉛表層土壌汚染サイトでのサステナブルレメディエーションの適用と対策の検討	小林剛(横浜国立大学)ほか	"

【会場2 (202会議室)】

開始時間	タイトル	発表者名	座長
セッション: ③再生可能エネルギー、地域電力、カーボンニュートラル			
9:30	FIP制度下の風力発電事業における水素製造の追加的価値に関する研究	藤平慶太(慶應義塾大学)	錦澤滋雄(東京工業大学)
9:45	福井県奥越地区における木質バイオマス発電の地域経済活性化効果	菊池武晴(福井工業大学)ほか	"
10:00	再生可能エネルギーの地域立脚性に関する考察: 事業主体と災害リスクの観点から	金再奎(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)ほか	"
10:15	PV発電量と電力需要の予測の不確実性が地域電力需給システムに与える影響	佐藤聖史(東京大学)ほか	村野昭人(東洋大学)
10:30	ソーラーシェアリングに対する住民態度に関する研究～神奈川県小田原市を事例として～	柴田直弥(東京工業大学)ほか	"
10:45	木質バイオマス熱電供給を用いた地域循環システムのエクセルギー解析による評価	山崎慶太(島根県立大学)ほか	"
11:00	地域貢献型太陽光発電施設の地域受容性に関する研究	池 翔(東京工業大学)ほか	"
(休憩)			

開始時間	タイトル	発表者名	座長
13:00	日本の2050年カーボンニュートラル達成に向けた排出削減と二酸化炭素除去—IPCC第6次評価報告書シナリオデータを用いた分析—	坂本将吾(電力中央研究所)ほか	吉田好邦(東京大学)
13:15	再生可能エネルギーに関する条例における協定の傾向と合意形成上の役割	長澤康弘(東京工業大学)ほか	〃
13:30	二酸化炭素回収・貯留技術(CGS)についての情報提供が中国国民の受容に与える影響	劉在強(北九州市立大学)ほか	〃
セッション:④地域おこし、人材育成、農村環境、災害復興			
13:45	洪水災害による重複被災と生活復興に向けた支援体制に関する研究—佐賀県杵島郡大町町を事例として—	坪井聖太郎(ひょうご震災記念21世紀研究機構)	松岡俊二(早稲田大学)
14:00	地方創生視点で捉えたワーケーション施設による情報発信内容の特徴と課題	劉銘(國學院大学)ほか	〃
14:15	地域人材の育成に資する探究学習の授業設計と運営体制構築に向けた実証的研究	新里早映(東京農工大学)ほか	〃
14:30	地域おこし協力隊の地域活動実施におけるコンフリクトとその対処:コーディネーターの役割から	安部梨杏(神戸大学)ほか	〃

【会場3(203会議室)】

開始時間	タイトル	発表者名	座長
セッション:⑤環境学習、環境意識、野生動物管理、国立公園利用、SDGs、生態系			
9:30	気候変動による被災不安とその規定因に関する研究	松本安生(神奈川大学)ほか	朝日ちさと(東京都立大学)
9:45	理想的な暮らし(Good Life)の主要素のMax-diff分析	吉野章(京都大学)ほか	〃
10:00	市民のプラスチック削減に対する行動および行動意図に影響をおよぼす要因分析	和田有朗(滋賀県立大学)ほか	〃
10:15	インターネット利用が精神的レジリエンスに及ぼす影響の縦断分析	坂部創一(創価大学)ほか	白川 博章(名古屋大学)
10:30	消費者の農業や農作物に対する関心とCSAの加入意向に関する研究	橋本佳奈((株)日本海コンサルタント)ほか	〃
10:45	シカの捕獲地予測モデルの構築—在のみデータに対するMaxentと機械学習による比較—	阿部将貴(東京大学)ほか	佐々木 啓(和歌山大学)
11:00	国立公園に対する多様な利用志向の把握と国立公園の管理・運営に関する考察	小堀貴子(東京大学)ほか	〃
11:15	ツシマヤマメコ交通事故対策をめぐる住民意識の把握	本田裕子(大正大学)ほか	〃
11:30	肉類消費抑制と代替肉普及のためのコミュニケーション方策の効果検証	小濱幸平(筑波大学)ほか	本田裕子(大正大学)
11:45	子育て中の市民における自然体験の伝承を実行する傾向にある集団に関する研究	吉富瑠夏(茨城大学)ほか	〃
(休憩)			
開始時間	タイトル	発表者名	座長(予定)
13:00	SDGsに関する話題の動向把握に対する新聞記事の有用性の検討	岩見麻子(熊本県立大学)ほか	藤稿亜矢子(東京女子大学)
13:15	脱炭素配慮への意識変容を目指した住民対話の場のデザインに関する実践報告—フューチャー・デザインの考えを取り入れた岩手県久慈市での事例—	重浩一郎(岩手県)ほか	〃
13:30	大阪府内の社寺林における天然記念物の今後の指定に向けた植生評価	上田萌子(大阪公立大学)ほか	菊池佐智子(都市緑化機構)
13:45	国史跡百舌鳥古墳群における植物相と植生の特徴	粟田香名子(和歌山県林業試験場)ほか	〃
14:00	京都盆地東山山麓の集落に残存する伝統的な石積み壁に生育するギフペニシダ(Dryopteris kinkiensis)の生育環境	村上健太郎(北海道教育大学函館校)ほか	〃
14:15	データ駆動アプローチによる持続可能な開発目標のネクサス構造の解析	松井孝典(大阪大学)ほか	森田香葉子(森林総合研究所)
14:30	自治体計画におけるSDGsの反映と重点ゴールに関する研究—全国154のSDGs未来都市計画及び15自治体への聞き取り調査結果を題材として—	増原直樹(兵庫県立大学)ほか	〃

2. 環境情報科学に関するポスターセッション (計64題)

環境情報科学研究発表大会(2023年12月18日 於 日本大学会館)

展示会場 会場4・会場5<大講堂(A・B会場)>

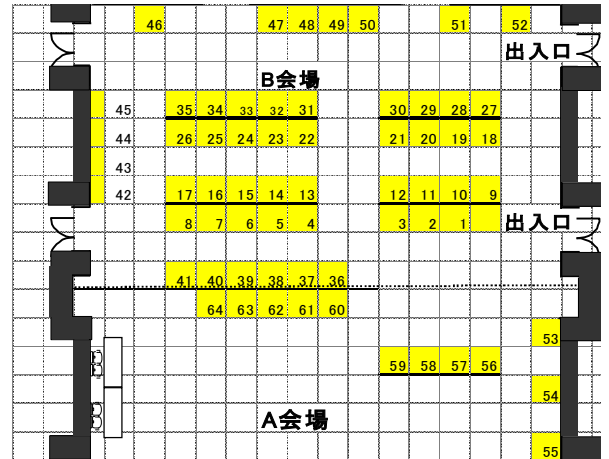
展示時間 10:30~14:00

発表区分 学生の部・一般の部

発表時間

奇数番号 10:30~12:00 コアタイム11:00~12:00

偶数番号 12:30~14:00 (コアタイム12:30~13:30)



【学生の部】

発表番号	ポスターの題名(登録時)	筆頭発表者	所属
1	多国籍アパレル企業のCSR活動の決定要因分析	イクカンキ	早稲田大学・環境エネルギー研究科
2	中国企業によるESG情報開示の影響要因に関する実証研究	于歌	横浜国立大学大学院国際社会科学府
3	企業の情報開示による消費者への環境啓発活動に関する研究~企業の環境報告書に焦点を当てて~	船山尚久	早稲田大学大学院・環境エネルギー研究科
4	交通障害を引き起こす濃霧の発生予測 一気象情報を利用した機械学習一	鈴木由樹	岡山理科大学大学院・生物地球科学研究科・生物地球科学専攻
5	北浦湖水を対象とした水質分析とセンサ計測データによるCO2吸収能力の評価	松浦朋哉	茨城大学大学院理工学研究科都市システム工学専攻
6	オンサイト型汚水処理設備の適正な維持管理状況の把握に向けた化学品のトレーサーとしての活用可能性	太田麻衣子	お茶の水女子大学・人間文化創成科学研究科・生活工学共同専攻
7	使用済み医療機器のリサイクルに対するLCA及び社会的投資収益率	松本杏由美	北九州市立大学大学院 国際環境工学研究科
8	車載用LiBの定置用への二次利用に係るLC-CO2評価	渡邊一史	立命館大学大学院・理工学研究科
9	企業の食品ロス削減の取り組みが家庭内の食品ロス削減にもたらす影響	陳鵬基	早稲田大学 環境・エネルギー研究科 環境・エネルギー専攻
10	SDGsに関連した行動の環境的要因とSDGsの具体的内容認識の因果関係に関する分析	木原駿	兵庫県立大環境人間学部環境人間学科
11	家庭系生ごみの分別収集施策が住民のごみ分別意識と行動に与える影響に関する研究一葉山町における取り組みを対象として一	陳若曦	早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科
12	超富裕層の環境寄付行為の意思決定の要因分析	星川陽祐	早稲田大学環境・エネルギー学科
13	産業廃プラスチックを対象とした再資源化施設選択モデルの開発	銚岩風人	北九州市立大学 国際環境工学研究科
14	自治体の特徴に応じた効率的な小型家電の回収方法の検討	板垣翔太	立命館大学大学院・理工学研究科
15	マイクロプラスチックの分析と分析方法の一考察: 鶴見川を事例として	林直樹	東京都市大学大学院 環境情報学研究科
16	降雨量の計測データを用いた洪水シミュレーション結果の検証	森下祥行	茨城大学大学院理工学研究科都市システム工学専攻
17	不飽和土壌中からの揮発性有機化合物の環境変動を考慮した解析と室内健康リスク評価	島 生成	横浜国立大学大学院 環境情報学府 環境安全科学研究室
18	季節の違いが緑化に対する支払意思額に与える影響	花田大地	筑波大学大学院・理工情報生命学術院
19	プラントベースフード購入に関する消費者行動の分析一情報付与による行動変容に着目して一	杉山葉奈子	早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科
20	地域コミュニティにおける環境保全活動への参加要因の分析	門澤 亜弥	早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科
21	カフェ利用者のシェアリングカップに関する認知・受容意識調査 ~Re & Goを事例として~	趙 碩ミン	早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科
22	A study on the analysis of microplastics in house dust	Zcelina Kristle Corre Oyson	東京都市大学大学院 環境情報学研究科

23	多主体参加型の気候変動適応まちづくりワークショップ手法 その2-社会実験を踏まえた予算制約下での施策導入場所の検討-	福山遼平	東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻
24	気候変動を考慮した洪水ハザードエリアに賦存する建築物ストックの将来推計 -名古屋市を例として-	細川莉来	名古屋大学工学部環境土木・建築学科
25	減災に向けたローカルフードシステムに関する研究	篠田 侑佳	立命館大学食マネジメント研究科
26	人工芝の色と温熱環境が利用者の満足度と与える影響に関する予備的検討	八巻諒	早稲田大学大学院 環境・エネルギー研究科
27	ゲーミフィケーションを用いたエネルギー環境教育による意識・行動変容に関する研究-本庄児玉地域の小学5,6年生を対象として-	村上裕紀	早稲田大学大学院 環境エネルギー研究科
28	PREFERENCES FOR ELECTRIC SCOOTER SHARING IN JAPAN	富田貴子	関西大学大学院 総合情報学研究科
29	心理バイアスなどが消費者のエシカルファッション購買意識と行動に与える影響に関する研究	姚 煥	早稲田大学大学院環境エネルギー研究科
30	昆虫食品に対する消費者選好-ココロギ粉末利用食品を対象として-	遠矢浩気	明治大学農学部食料環境政策学科
31	屋外空間利用がオフィスワーカーに与える心理・生理的影響とその要因に関する研究	池田千紘	筑波大学大学院システム情報工学研究群社会工学学位プログラム
32	都市における民営オープンスペースの意義に関する研究	千田 羽都早	早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科環境・エネルギー専攻
33	東京都臨海部における水辺の遊歩道と背後地の一体的整備に向けた方策検討-港区・品川区の水門内水域を対象として-	今市尚大	日本大学・理工学部・海洋建築工学科
34	人流ビッグデータを用いた「Natural Cities」と温熱環境の関係分析についての研究	Nguyen Huu Quang	筑波大学システム情報工学研究群社会工学学位プログラム
35	将来の人口変化とインフラの退蔵化リスク -道路インフラを例として-	喜古 響	名古屋大学工学部環境土木・建築学科
36	酒造業の地域貢献・環境配慮活動に関する分析	井原利奈	早稲田大学院環境エネルギー研究科環境エネルギー専攻
37	自主防災組織に求められる日頃の活動-東日本大震災における活動事例集に基づく分析-	鈴木 高大	早稲田大学大学院 環境・エネルギー研究科 環境・エネルギー専攻
38	軽井沢別荘地景観が観光資源となっている要因に関する研究	湯澤泉実	日本大学理工学部まちづくり工学科
39	都市型CSAにおける生産者と消費者の連携に関する研究-コーディネーターの役割の役割に着目して-	柴田理美	早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科
40	農村体験事業を通じた参加者の意識と行動変容に関する一考察	佐藤彩香	立命館大学食マネジメント研究科食マネジメント専攻
41	災害流木をSAF(Sustainable Aviation Fuel)の原材料として活用する方策に関する考察 ~北海道を事例として~	佐々木 力	早稲田大学大学院 環境・エネルギー研究科
42	小型風車設置における付加価値の検討~東邦大学習志野キャンパスを事例に~	宮本 誠隆	東邦大学・理学部・物理学科
43	生態系保全・防災を考慮した太陽光・陸上風力ポテンシャルの評価: 2030年エネルギーミックス目標との比較	東出天舞音	大阪大学工学部環境・エネルギー工学科
44	カーボンニュートラル対策がプラスチックリサイクルのCO2削減に与える影響	崎田結香	北九州市立大学大学院・国際環境工学研究科
45	カーボンニュートラルとネイチャーポジティブ同時達成に向けた社会・経済統合評価モデルのモジュール開発	田中愛子	大阪大学・工学研究科・環境エネルギー工学専攻
46	調整力を用いた事業所における再生可能エネルギーの最大活用に関する研究	カオリルトフィア	北九州市立大学大学院国際環境工学研究科環境システム専攻
47	機械学習を用いたメガソーラー開発事例の空間特性の分析	増田惟吹	大阪大学工学部環境・エネルギー工学科
48	ポスト2030アジェンダに向けた課題探求: 自然言語処理技術を用いた学術論文分析	宮下直士	大阪大学大学院工学研究科 環境エネルギー工学専攻
49	SDGsに関するテレビ番組の傾向に関する研究	齋藤瑠斗	早稲田大学大学院 環境・エネルギー研究科
50	Visualization of the relational values between humans and nature in Japan: applying geospatial data-driven methodology	周月茹	大阪大学・工学部・環境エネルギー工学科
51	都道府県別プラネタリーバウンダリーとソーシャルバウンダリーの評価	渡辺 舞	大阪大学・工学部・環境エネルギー工学科
52	放棄林の管理動向に関する研究	作道雅楽	明治大学農学部食料環境政策学科

【一般の部】

発表 番号	ポスターの題名（登録時）	筆頭発表者	所属
53	市民による地域バス交通のあり方検討のための熟議型ワークショップの実践	木村道徳	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
54	個人の属性・状態を考慮できる新たな熱中症リスク評価	仲吉信人	東京理科大学創域理工学部社会基盤工学科
55	PFASに関するリスクコミュニケーションのあり方の考察	青木玲子	株式会社環境管理センター 基盤整備・研究開発室
56	気候変動を考慮した流域治水に対する社会的受容に関する調査報告	松本美紀	静岡理科大学理工学部土木工学科
57	台湾における淡水河流域の土地利用将来予測と農業・農村への影響	Huang Wanhui	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻
58	明治のお雇い西洋人の日本風景の評価	青木陽二	国立環境研究所
59	多主体参加型の気候変動適応まちづくりワークショップ手法 その1-温熱環境調査を踏まえた模型制作とその解析-	山崎潤也	東京大学大学院工学系研究科
60	自治体の地球温暖化対策計画書をもとにした脱炭素政策の類型化－SDGs未来都市の一部の自治体を対象として－	尾崎平	関西大学・環境都市工学部・都市システム工学科
61	社会イノベーションにおける協働の場のリーダー	岩田 優子	
62	地方環境研究所の研究成果が行政施策に活用される要因と機序－PM2.5関連研究を例に－	豊永悟史	熊本県保健環境科学研究所大気科学部
63	高等学校における「総合的な探求の時間」を利用した防災教育の実践	坪井塑太郎	帝京大学・経済学部・地域経済学科
64	福島県の林業における素材生産の課題	日下部一晃	福島県環境創造センター 研究部

3. 一般公開シンポジウム

「第6次環境基本計画への期待と環境情報科学センターの貢献」（仮題）

- 日時：2023年12月18日（月）15：00～17：10
- 場所：日大会館 2F大講堂B 及び オンライン配信
- 後援：環境経済・政策学会、環境アセスメント学会、環境福祉学会、環境科学会
- 参加定員： 150名
- 参加費：無料

なお、基調講演・特別講演はオンデマンド配信となりますので、事前に御覧いただいたうえで御参加ください。

□開催趣旨：

中央環境審議会総合政策部会において、2024年度以降の環境政策の方針を示す第6次環境基本計画について審議が進められており、先日その中間とりまとめが公表されました。そこでは、循環共生型の「環境・生命文明社会」を目指すべき持続可能な社会として、グリーンな経済システムの構築や環境・経済・社会の統合的向上の場としての地域づくり等6つの視点で重点戦略を策定し、その実現に向けての取組みを進めるとしています。

一般社団法人環境情報科学センター（CEIS）は、2022年に設立50周年記念を迎え、年末には一般公開シンポジウム「環境情報科学の将来展望 持続可能な脱炭素社会に向けたCEISの役割」を開催しました。さらに、本年3月には、2030年以降を視野に持続可能な社会の達成に向けてCEISのあるべき姿を示す長期ビジョンを策定し、同時に第2次中期計画2025も定めて重点的な課題を提示して、新たに企画委員会を設置して「次世代の力を活かした持続可能な社会への環境情報科学の貢献」をテーマとして取り組んでいます。

本シンポジウムは、上記のような状況を踏まえて、第6次環境基本計画への期待とCEISの貢献をテーマに、基調講演と特別講演をしていただきます。

これを受けてパネルディスカッションでは、新たな成長を導く持続可能な生産と消費を実現するグリーンな経済システムの構築、環境・経済・社会の統合的向上の実践・実装の場としての地域づくり、及び「Well-being／高い生活の質」を実感できる安全・安心、かつ、健康で心豊かな暮らしの実現という、主として3つの視点から現状と課題についての発表とディスカッションによるコメントをいただき、今後の展望、実践への課題等を議論します。

これらを通じて、中間とりまとめで示された「環境収容力を守り環境の質を上げる

ことによって経済社会が成長・発展ができる」文明の構築、及び現在及び将来の国民が希望を持てる「Well-being/高い生活の質」の実現に向けて、環境情報科学の発展と第6次環境基本計画の策定・実践に向けての貢献を目指します。また、CEISとして中期計画及び長期ビジョンの効果的な実施に向けて、成果の反映を図ります。

□講演者(予定)

基調講演： (オンデマンドで事前公開予定 ※)

第6次環境基本計画の目指す社会と環境情報科学の果たす役割 (仮題)

講演者： 高村ゆかり 東京大学未来ビジョン研究センター教授
中央環境審議会会長 (総合政策部会部会長)

※公開が遅れる可能性があります

特別講演： (オンデマンドで事前公開)

持続可能な社会構築に向けた環境省の取組 (第6次環境基本計画改定等の議論を踏まえて) (仮題)

講演者： 上田康治 環境省官房長 (前環境省総合環境政策統括官)

パネルディスカッション： (対面及びオンライン配信)

モデレーター： 村上暁信 筑波大学システム情報系教授、(CEIS常務理事、企画委員会委員長)

パネリスト：

堀井 亮 大阪大学社会経済研究所教授

小谷幸司 日本大学生物資源科学部教授、(CEIS理事、地域循環共生圏の推進のための研究に関する提言検討WG 進行役)

村山武彦 東京工業大学環境・社会理工学院教授 (CEIS理事、英文誌刊行等委員会委員長)

ディスカッサント：

大倉紀彰 環境省大臣官房政策調整官

(以上 敬称略)

4. 公募企画セッション・公募企画シンポジウム

＜オンライン配信 参加費無料＞

【テーマ1】

開催日時	2023年12月17日(日) 13時～16時
タイトル	厄介な問題に挑戦する境界知作業者とエンパシー能力について考える
企画責任者	(主) 松岡 俊二<早稲田大学大学院アジア太平洋研究科> (副) 辻 岳史<国立環境研究所福島地域協働研究拠点>
趣 旨	気候変動や災害対策などの社会問題は、トランス・サイエンス的課題あるいは厄介な問題であり、「科学に問うことはできるが、科学で答えを決めることはできない」と考えられる。こうした厄介な問題の解決策は、科学と政治と社会の協働による対話の場の形成と新たな知識生産に基づく成解を得ることであるとされてきた。しかし、どのように対話の場を形成し、対話の場をどのように機能させることが、民主的決定プロセスを経て社会が納得する成解の導出に繋がるのかは不明な点が多い。本企画では、対話の場の形成と進化における境界知作業者の役割とエンパシー能力のあり方に注目し、気候変動や災害対策などの厄介な問題の解決へ有効な対話の場とは何かを広く議論し深く考えたい。
内 容	司会：松岡俊二（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授） 報告： 1. 寺本 剛（中央大学理工学部教授、哲学）「対話の難しさと重要性：トランス・サイエンス的課題と厄介な問題」 2. 松岡俊二（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授、環境経済・政策学）「科学と政治と社会の協働による対話の場：1F 地域塾と福島再生塾など」 3. 辻 岳史（国立環境研究所福島地域協働研究拠点・主任研究員、地域社会学）「境界知作業者とは誰か？：科学・政治・社会の協働による『対話の場』のキーパーソンに焦点をあてて」 討論者： 葛西優香（東日本大震災・原子力災害 伝承館・研究員） 前川直哉（福島大学教育推進機構高等教育企画室・准教授） 田村哲樹（名古屋大学大学院法学研究科・教授） 戸川卓哉（国立環境研究所福島地域協働研究拠点・主任研究員）

【テーマ2】

開催日時	2023年12月15日(金) 14時～16時
タイトル	洋上風力発電所に関する環境アセスメント、環境配慮
企画責任者	(主) 大塚 直<早稲田大学法学部> (副) 錦澤滋雄<東京工業大学環境・社会理工学院>
趣 旨	洋上風力発電については、環境アセスメントに関して問題が山積している。その最大の理由は再エネ海域利用法が環境アセスメントとの関係を考慮していないことにあるが、それ以外にも、温対計画の目標達成のための迅速な導入に向けたいわゆるセントラル方式の導入、洋上特有の環境負荷の不確実性への対処の必要等、検討すべき課題は多い。この企画では、洋上風力発電に関する環境アセスメント、ゾーニング、景観への配慮、協議会の在り方などについて検討する。
内 容	1. 「総論」（大塚 直：早稲田大学法学部）14:00-14:25 2. 「洋上風力発電に関する環境アセスメントと合意形成」（錦澤滋雄：東京工業大学環境・社会理工学院）14:25-14:50

	<p>3.「洋上風力アセスにおける景観への配慮」(荒井歩:東京農業大学地域環境科学部) 14:50-15:15</p> <p>4.「再エネ海域利用法の法定協議会における環境配慮」(竹内彩乃:東邦大学理学部) 15:15-15:40</p> <p>質疑 討論 15:40-16:00</p>
--	--

【テーマ3】

開催日時	2023年12月17日(日)午後4時半～6時半
タイトル	神宮外苑の歴史的文化的資産の価値を守る - イチヨウ並木と100年の森-
企画責任者	<p>(主) 原科幸彦<千葉商科大学学長、東京工業大学名誉教授></p> <p>(副) 戸塚浩一郎<千葉商科大学 学長事務室室長></p>
内 容	<p>※対面とオンラインのハイブリッド開催</p> <p>対面会場:千葉商科大学 丸の内サテライトキャンパス (マップ https://www.cuc.ac.jp/access/index.html)</p> <p>◆プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・趣旨説明:原科幸彦(千葉商科大学学長、東京工業大学名誉教授) ・基調講演:石川幹子(イコモス日本国内委員会理事、東京大学名誉教授) 「文化的資産としての都市公園 - イコモス・ヘリテージ・アラートから - 」 ・コメント: 藤井英二郎(千葉大学名誉教授) <p>ロッシェル・カップ(経営コンサルタント)</p> <p>原科幸彦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パネル討論: 上記4名で。原科が司会進行 <p>後援: 千葉商科大学、国際影響評価学会(IAIA)日本支部</p> <p>問い合わせ先:千葉商科大学学長事務室<E-mail:p-office@cuc.ac.jp> (対面での参加をご希望の場合は、上記問い合わせ先までご連絡願います)</p>